

八学大

「BOSA」推進室」新設

4月 学生・市民の防災士養成

地域守りに関わる意識持つきっかけに…

八戸

「推進室」を4月、同大に新設する。講座は同大学生のほか一般市民も受講可能。2日間の講座受講後に防災士資格試験を受験できる。同センターによると、学校法人の防災士養成は県内2例目、東北で3例目。室長に就任する井上丹・同センター客員准教授(34)は「学生や住民が地域を守り地域に関わる意識を持つきっかけになる」と話す。

(若松清巳)



防災士証を持つ井上客員准教授

防災士は特定非営利活動法人・日本防災士機構が2003年から認定している民間資格。地域の防災意識や防災力向上に努め、発災時には住民の避難誘導や救助に当たる。井上准教授によると防災士を目指す市民ニーズは高く、首都圏では企業や病院、学校などで講座を開く例が増加。県内では同市や青森市、弘前市など複数の自治体が住民の資格取得に対する受験費用などを助成しているという。

同推進室は、防災士養成のほか地域の防災訓練・防災計画の策定支援、避難所運営教育推進など八つの機能を持つ。防災士養成講座は土、日曜の開講で年に3回行い、計12の授業を受けた受講者は日曜午後の資格試験を受験できる。授業の内容は防災士の役割、災害時対応や医療、危機管理から復旧・復興まで幅広く、防災士、行政の防災担当、救急救命医、気象予報士などが講師を務める予定。

講座1回(土日)の定員は約100人。受講費用は同大学生2万円、一般4万円、テキスト代や受験料など含む。第1回講座は5月12、13の2日間を予定。資格試験合格と併せ、各地域の消防本部などが開く救

- BOSA**の機能
- 防災士の養成
 - 防災訓練・地区防災計画の策定支援
 - 幼稚園・保育園から高等学校における防災教育の推進
 - 八学大学生ボランティアの養成
 - 避難所運営教育の実施
 - 国外の災害と災害支援を通じた国際理解教育の実施
 - 災害被ばく・健康リスクコミュニケーション
 - 災害に強いまちづくり支援

命救急講習を受講すれば、防災士の資格が得られる。防災を「BOSA」とローマ字にしたのは、日本の防災研究や対策を国際的に発信するとともに、海外災害の支援を目指す人材を育てるためという。防災士でもある井上准教授は推進室の必要性を「各種災害の知識を持ち、高齢者ら住民を被害から守るとともに避難所運営まで担う防災士は

住民ニーズに対し不足しており、養成は不可欠」と指摘。災害時に住民を守るには地域や住民の状況を普段から知っておく必要がある。「学生が防災士となり防災訓練を主導するなど地域の実情に触れることで、地域活動にも主体的に関われる」と期待する。問い合わせはメールで井上准教授(inoue@hachinohe-nac.jp)へ。